



台風19号は、2019年10月12日から13日未明にかけ、東海、関東、東北地方を縦断し、河川の氾濫や土砂災害など各地に甚大な被害を及ぼしました。A-PADジャパンは、パートナー団体のピースウィンズ・ジャパン (PWJ)、シビックフォース (CF) と共同で発災直後から緊急支援活動を展開しています。今日までの活動についてご報告いたします。

空飛ぶ医師団の派遣

13日午前、佐賀空港から佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センターの医師2人（朝日医師・松岡医師）とスタッフ1人を含む「空飛ぶ医師団」を専用機で被災地の長野に派遣しました。富山空港で緊急合同支援チームのメンバーと合流し、千曲川の決壊により停電に加えて断水した医療機関に入りました。



避難所での診察

13日、長野市内の2箇所の避難所で、医師が避難している方の診察を行い必要に応じて薬の処方を行いました。



緊急支援物資の調達・配送

14日、千曲川周辺の避難所などでニーズ調査を開始、衛生用品などを調達・配布。緊急災害対応アライアンス「SEMA」を通じて提供された下着や防寒着など約5600着や高圧洗浄機などを届けました。16日には、断水が続く福島県相馬市や宮城県丸森町に給水袋850枚を届けました。

浸水した病院の患者搬送

13日から15日にかけて、DMAT、自衛隊らと協力し、浸水した長野県立総合リハビリテーションセンターと賛育会クリニック（長野市）で、入所者や患者ら276人の他医療機関への搬送を支援しました。停電が発生したりリハビリセンターに発電機やランタンを提供しました。



佐賀県知事への報告

長野での医療支援活動から戻った15日夕、佐賀大学の医師2名が現地の様子を佐賀県の山口知事に報告しました。「汚水の異臭や寒さなど、現場に行くと初めて分かる厳しい状況があった」などと被災地の状況を報告しました。



Voice～被災地からたくさんの声が届きました

「連日、全力で救っていただいたおかげで、近隣病院に患者を搬送できました。病院の清掃までしていただき、本当にありがとうございました」
長野市・賛育会クリニックの看護師

「浸水し停電が発生したりハビリセンターや病院では患者搬送の際に足元を照らすランタンがほんとうに役に立ちました。」
患者の搬送を支援した医師



「自宅は泥に埋もれてしまいました。罹災証明の手続きはなんとか進んだけれど、家の片付けはまだこれから。いただいた靴下は同じように大変な目にあつたご近所の方にも渡します。」
千曲市役所を訪れた女性

「高圧洗浄機のご支援ありがとうございます。少しでも早い復旧を遂げ、観光地としての小布施の街をまたみなさんにみてもらいたいです。」
小布施町災害ボランティアセンター職員

A-PADジャパンから皆さまへ ご寄付のお礼とご報告

A-PADジャパンの台風19号緊急支援活動に対し、佐賀県のふるさと納税を通じて、180人の皆さまから479万円のご寄付を頂戴しました。(10月28日現在)。ご支援いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。

今後は、物資支援だけでなく、地域の中長期的な復興を見据えた支援活動を、長野、福島、宮城、千葉などで続けていく予定です。継続したご支援をお願いいたします。

ふるさとチョイス
【緊急】令和元年
台風19号被災者支援



目標金額:1,000万円
寄付募集期間:2019年10月12日～12月31日